

鎌倉橋上遺跡D地点住居跡出土遺物



〔指定年月日〕平成一七年三月二三日
〔種別〕有形文化財（考古資料）
〔名稱〕鎌倉橋上遺跡D地点住居跡出土遺物
〔点数〕三三三六件
〔所有者等〕杉並区教育委員会
〔所在地等〕阿佐谷南一―一五―一

鎌倉橋上遺跡D地点住居跡出土遺物

鎌倉橋上遺跡は神田川上流部の北岸台地縁辺部、浜田山二丁目七・八番を中心に存在する。本遺跡からは平成九年（一九九七）以後数度に渡って行なわれた発掘調査によって、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の集落跡や縄文時代及び旧石器時代の遺物群等が発見されている。

本資料は、平成一五年（二〇〇三）に浜田山二丁目七番で行なわれた発掘調査の際に発見された住居跡から出土した土器群であり、概ね弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の時期のものである。本資料が出土した住居跡は、区内最大規模の大形住居及び中形・小形の各住居であり、規模的に多種の住居によって構成された集落といえる。発見された九軒の住居跡から出土した土器片は総数三三三六点を数え、器形の復元が可能な資料も多い。土器の種類としては、壺形土器・甕形土器・高坏形土器等の一般的な器種の他、非常に精緻な作りの器台形土器や小形壺形土器等があり、良好なセット資料である。

これまでの区内の発掘調査から、区内の当該期の遺跡分布状況は、方南峰遺跡や松ノ木遺跡等善福寺川流域に大幅に偏る傾向にある。しかし本遺跡の調査により、神田川上流部にも当該期の遺跡分布があり、また、発見された住居跡の様相から、比較的大規模な集落が形成されていたことが判明した。本資料は量・種類ともに豊富であり、他遺跡との対比をする上でも貴重な資料である。

本資料は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の杉並区内の集落間の位置付けや個々の集落の様相を比較・検討することによって、当該期社会の様相を示す一つのモデルケースを提示することが可能な資料である。

【文化財所在地】

